

令和5年度 第2回
港南区連合町内会長連絡協議会・港南区協働による地域づくり推進協議会
合同意見交換会 開催報告

日 時	令和6年2月20日（火）14時10分から15時50分まで
場 所	港南区役所6階 601・602・603会議室 5階 特別会議室
出席者	木島会長（上大岡）、横川会長（大久保最戸）、☆☆荻久保会長（笹下・区社協）、 ◇市村会長（日下）、田代会長（日野）、□小後摩会長（日野第一）、 川島会長（港南台）、高橋会長（永野）、黒田会長（野庭団地）、 黒川会長（野庭住宅）、○●古屋会長（下永谷・区連会）、 若林会長（永谷・地区社協分科会）、飯島会長（芹が谷）、 ◇宮島会長（ひぎり）、☆上田会長（日野南）、★黒川会長（民生）、 小室会長（スポ推）、穂永会長（青指）、富山副代表（消費・代理出席）、 岩崎会長（環境）、武馬副会長（シルバー・代理出席）、小松会長（ヘルスマイト）、 稲村会長（工業会）、大木会長（保護司会）、栗原区長
	○港南区連合町内会長連絡協議会 会長、☆同副会長、◇同監事、□同会計 ●港南区協働による地域づくり推進協議会 会長、★同副会長

◆第2回意見交換会について

第1回意見交換会において次の意見が出されました。

- ・高齢化や担い手不足等、共通している部分が多いと思った。
- ・担い手不足には、目の前の問題ともっと先を見た問題の2つがある。
- ・社会もどんどん変わっているため、既存のルールや取組を変えていくことが必要。
- ・小中高の世代に自分たちの地域を知ってもらうことは非常にいい取り組み
- ・活動を知らない人が多く、周知方法に悩んでいる。

これを踏まえて4つのテーマを設け、グループに分かれて意見交換を実施しました。

テーマ1 地域活動の参加者を増やすには

内容：現在活動に携わっていない人を巻き込む・引き込む、青少年の参加、等

テーマ2 担い手探し、担い手づくりについて

内容：活動者の中から次の役員候補を見つける・育成すること、等

テーマ3 地域活動を今後も続けていくために

内容：高齢化や会員減などへの取組や現状にあった活動への工夫、会員増に向けた取組、担い手の負担減につながる取組、等

テーマ4 自分たちの活動を広く知ってもらうためには

内容：広報の内容や方法について、仲間を増やしたり他団体とつながる取組、等

<p>テーマ1</p>	<p style="text-align: center;">地域活動の参加者を増やすには</p> <p>内容：現在活動に携わっていない人を巻き込む・引き込む、青少年の参加、等</p>
<p>テーマの 基になった意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「担い手不足には、目の前の問題ともっと先を見た問題の2つがある」のうちの「もっと先を見た担い手づくり」 ・小中高の世代に自分たちの地域を知ってもらうことは非常にいい取り組み
<p>参加者</p>	<p>木島会長（上大岡）、田代会長（日野）、小後摩会長（日野第一）、川島会長（港南台）、黒川会長（野庭住宅）、穂永会長（青指）、大木会長（保護司会）</p>
<p>【主な意見】</p> <p>※事務局で、類似する発言をまとめたり、説明を補う等の加工をしています。</p> <p>■子どもや青少年に参加してもらう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区内で子どもや青少年のグループが活動し、その父母が自治会町内会の役員になるなど、自治会町内会とのつながりができている。 ・子どもがイベントを手伝いながら運営を覚えてくれることを期待している。 ・子ども会中心の活動では加入していない子や親が遠慮して人が集まりにくい。「●●地区の子ども」として声をかけている。 ・高校に声をかけ、生徒に地域防災訓練に参加してもらった。他のイベントも声をかけると来てくれる。 <p>■多忙な世代に担い手になってもらう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員をアミダくじで決めた結果、若い人が役員になった。しかし、くじで決めるにしても欠席裁判をする訳にはいかないなので、まずは会議に出席してもらう必要がある。 ・ひな祭りや鯉のぼり掲揚など小さい子向けのイベントを行うと親も来るが、「何か手伝うと役員にされる」という警戒心を解く必要がある。 ・実行委員会を作り、ごく軽い役割など、ちょっとでも手伝いに参加してもらえるようにしている。 ・1日のイベントでも1時間単位で都合を聞いてシフト制にしている。短時間なら忙しい人でも参加しやすい。 <p>■自治会町内会以外と協力する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童保育、キッズクラブ、おやじの会、サッカーや野球クラブといった、自治会町内会以外の既存の会と協力している。「まつりの出店は資金稼ぎになり助かる」との声があり、WIN-WINだ。 <p>■参加者の声を聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども向けイベントのアンケートで「子どもが参加でき助かる」という声が多く、運営の励みになった。独りよがりな活動にならないためにも、面倒でも参加者にアンケートを取った方が良い。 <p>■お互い学び合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他地区のノウハウそのままではうまく行かないが、色々見て「良い所取り」とすると良い。視野も広がる。その点「学び舎ひまわり」は良い取組。 	

テーマ2	<h2 style="text-align: center;">担い手探し、担い手づくりについて</h2> <p style="text-align: center;">内容：活動者の中から次の役員候補を見つける・育成すること、等</p>
テーマの基になった意見	<p>・「担い手不足には、目の前の問題ともっと先を見た問題の2つがある」のうち、目の前の担い手づくりについて</p>
参加者	<p>荻久保会長（笹下・区社協）、市村会長（日下）、高橋会長（永野） 宮島会長（ひざり）、岩崎会長（環境）、武馬副会長（シルバー）</p>

【主な意見】

※事務局で、類似する発言をまとめたり、説明を補う等の加工をしています。

■担い手の探しかた

- ・イベントやふれあいの場を作ることが大事。その場で頼りになりそうな人や活躍しそうな人を見つめ、引き込むと良い。
- ・50歳以上で構成されている青年団では、活動を通して担い手を引き込んでいる。
- ・親が地域活動を楽しんでいるのを見て、「私もやりたい」と中学生が参加してくれている。
- ・防犯パトロールをきっかけに声をかけられ、会長になった。
- ・ボランティアから活動してもらい、そこから担い手を引き込むと良い。
- ・いきなり自治会町内会の会長をお願いするのではなく、まず委嘱委員として活動してもらい、その後会長などを依頼するのが良いのでは。
- ・色々な活動を通じて知り合いが増え、顔見知りになっていることで困ったときに助け合える。「担い手探しは住んで良かった探し」。

■役員負担を減らす

- ・行事や会議等の参加が難しい場合もあるが、無理に来なくても大丈夫であることを伝えたり、欠席しても大丈夫な雰囲気づくりをしている。
- ・資料の作成や共有等に負担がかかるので、簡単に情報共有できるようデジタル（パソコンやLINE等）を取り入れている。
- ・行事を見直し、時間を短縮したり、内容を変更したりする。
- ・育っていないと思っても、妥協して任せる。

■活動を長く続けてもらう

- ・最初は誰でも大変なので、フォローが必要。
- ・1年交代を2年交代にしてほしいと依頼した。1年交代では、活動の意義や楽しさを見出す前に交代になり、人材が育たない。うまく引継ぎもできない。
- ・「学び舎ひまわり」に参加した人は、「楽しい」と活動を継続してくれている。
- ・1年交代の班長などに対しては、仲間に入ってきやすいように積極的に声掛けしている。
- ・役員の定年を設けていないため年配者がいるが、長く活動してもらうために負担をかけないようにしている。
- ・楽しくないとだめ。達成感を感じてもらおうと、来年もやろうと思ってもらえる。

<p>テーマ3</p>	<p style="text-align: center;">地域活動を今後も続けていくために</p> <p>内容：高齢化や会員減などへの取組や現状にあった活動への工夫、会員増に向けた取組、担い手の負担減につながる取組、等</p>
<p>テーマの 基になった意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化や担い手不足等、共通している部分が多いと思った。 ・社会もどんどん変わっているため、既存のルールや取組を変えていくことが必要。
<p>参加者</p>	<p>横川会長（大久保最戸）、黒田会長（野庭団地）、古屋会長（下永谷・区連会） 飯島会長（芹が谷）、上田会長（日野南）、黒川会長（民生）、稲村会長（工業会）</p>

【主な意見】

※事務局で、類似する発言をまとめたり、説明を補う等の加工をしています。

■イベントや会議等を見直す

- ・マンパワーが減少している状況では、何に重きを置くのか、何をやっていくべきなのか精査する必要がある。身の丈にあった活動をしていくことが良い。
- ・「あまり手がかからず人に来てくれるイベント」を継続的に実施するのが良い。例えば朝の体操イベントには人が割と集まる。
- ・イベントを実施する際、一つの地区だけではなく隣の地区と一緒に行うことで負担を減らすという方法もある。
- ・高齢化が進み、会議等の時間も短くせざるを得ない。祭りの規模や方法を縮小し、仕事を減らすことも大事。
- ・会議の参加者には働き世代の方もいるため、毎月第〇曜日といった定例化や、時間を夜にする等の工夫をしている。

■行政の支援が必要

- ・住民の超高齢化により自治会の運営も大変厳しくなっており、住民だけでは対処しきれないので、行政の具体的な支援が必要。

■担い手交代時の引継ぎをしっかりとする

- ・仕事を任せる際には、しっかりとしたマニュアルが必要であり、引継ぎを徹底的にすることが大事。
- ・役職を交代する際は、交代して後はお任せにしてしまうと大変なので、半年ほど一緒について引継ぎをしている。

■会員や役員等を増やす

- ・新たに引っ越ししてきた方に対し、町会の加入活動を積極的にしていくことを検討している。
- ・何かメリットを感じる事が出来るよう工夫する必要がある。自治会町内会の役員や委嘱委員などは、役所からの様々な依頼に負担を感じており、メリットがないと考えているのではないか。自治会町内会への加入についても同様だ。
- ・ボランティアを有償にすることを考えてもいいのでは。

■社会変化に合わせて改革する

- ・どんどん改革していくことが大切。社会の変化に合わせて改革が必要がある。

<p>テーマ4</p>	<p style="text-align: center;">自分たちの活動を広く知ってもらうには</p> <p>内容：広報の内容や方法について、仲間を増やしたり他団体とつながる取組、等</p>
<p>テーマの 基になった意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を知らない人が多く、周知方法に悩んでいる。
<p>参加者</p>	<p>若林会長（永谷・地区社協分科会）、小室会長（スポ推）、富山副代表（消費）、小松会長（ヘルスマイト）、栗原区長</p>
<p>【主な意見】</p> <p>※事務局で、類似する発言をまとめたり、説明を補う等の加工をしています。</p> <p>■色々な相手とつながる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の目的が明確になっている委嘱委員と、面で動いている自治会町内会が連携できれば、良い広報につながるのでは。 ・夏祭り等の連合の大きなイベントに対し、委嘱委員として参画することでイベント自体も良くなるだけでなく、自治会町内会とのつながりができるという相乗効果生まれる。 ・連合の中で合同会議を開催しているため、団体同士のつながりができてお互いの活動を知るきっかけになっている。 ・委嘱委員の地区代表からその地区の連長に相談していく流れをつくることできれば、良いつながりができるのではないか。 ・スポーツ推進委員とヘルスマイトは健康づくりという視点で共通点があるので、広報でも連携できるかもしれない。 ・無印良品など企業と連携してPRを行っている。 ・災害ボランティアネットワークとのつながりができたことで広報に幅が出た。 <p>■子どもを通じた広報をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校にも事前の広報に協力いただくと取組を周知しやすいのではないか。 ・小学校向けに広報ができれば子どもだけではなく、親世代にも情報を届けることができる。 ・子どもたちは地域を知りたがっているので、地域にとってはチャンスだと思う。 <p>■情報がより伝わるよう工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事に参加するかどうかはその人の関心ごとによって異なり、全ての方に興味を持ってもらうことは難しいが、とにかく広く広報していく必要がある（誰かのツボに入ればOK）。 ・時代やターゲットにしたい世代によって有効な広報ツールも変わってくるので、ターゲットが誰なのかをしっかり決めたいうえで広報していくことが大切。 ・魅力的な部分を多少大げさに伝えていく必要がある。 ・スポーツ推進委員全員だより（自治会町内会向け）とスポーツ推進委員のかわら版（スポ推向け）の二つを作成していて、自分たちの活動を紹介できるようにしている。 ・地域の活動を知ってもらうために、区ホームページの「まち・ひと・ダイアリー」で広報している。 	

◆まとめ 古屋会長



どのテーマもすぐに答えが出せるものではありませんが、今日の皆さんのお話を参考に、それぞれが活動を工夫したり、団体同士が協力し合う等のきっかけになれば良いと思います。

少しでもいい方向に進むように、協働による地域づくりを進めていきましょう。

当日の様子



テーマ1



テーマ2



テーマ3



テーマ4

